

第 7 回(令和 5 年度第 4 回)宜野湾市地域公共交通推進協議会 議事概要

日時：令和 6 年 3 月 7 日（木） 14 時 00 分～

場所：宜野湾マリン支援センター 2 階会議室

議題. 宜野湾市地域公共交通計画(案)

No	主な指摘・意見	対応方針	計画への反映
1	市として、オキカの推進についてどのような取組を考えているのか。（小川委員）	現時点で具体的な取組は検討していないが、関係機関と調整して、今後検討を進めていきたい。	－
2	施策が 24 から 21 に 3 つ減っているが、その内訳を教えてほしい。（崎原委員）	施策 3-1、3-2 が新施策 2-3 に統合、施策 8-1、12-2 が新施策 7-1 に統合、施策 10-1、10-2 が新施策 9-1 に統合している。	－
3	オキカを自治会や商工会などいろいろなところで販売できるようにしてほしい。社協も含めて、関係機関に呼びかけてもらえればと思う。（仲村渠委員）	No1 と同じ	－
4	道路の名称が、名称表示と番号表示で混在しているので、名称表示で統一してほしい。（中部土木）	名称表示で統一する。	○
5	用語集にウォークアブルなまちづくりを追加してほしい。（中部土木）	用語集に追加する。	○
6	施策 7-1 の情報周知は、アプリ、ホームページの事例が記載されているが、高齢者向けの情報提供も検討すべきではないか。（佐藤委員）	出前講座など高齢者向けの情報提供も予定している。今後、情報提供を考える中で検討していく。	－
7	オキカ利用のメリットが感じられない。交通系共通カードの方が利便性が高い。何か対策は考えられないのか。（佐藤委員） 最近はクレジットカードでもタッチ決済ができるようになっている。 観光客を含め利用者を増やすという視点ではオキカだけ進めるのではなく、その他の選択肢を増やすという発想も入れていった方がよい。（長堂委員）	オキカは乗り継ぎ利用のための重要なツールととられている。（事務局） オキカは、十分なポイント付与はできていないが、利用できる商業施設や、タクシーを増やしてきており、メリットはある。（小川委員）	－

No	主な指摘・意見	対応方針	計画への反映
8	P2 の（３）の計画の役割は、内容をみると「役割」ではなく「内容」の方がよいのではないか。（大城委員）	目的を踏まえた役割を示しており、表現はそのままとする。	—
9	P3 の文章では「本計画」は「都市交通マスタープラン」と連携と記載されているが、図では「都市交通マスタープラン」と「都市計画マスタープラン」が連携、「本計画」は「都市交通マスタープラン」に即ずとなっている。整合していないのであわせた方がよい。（大城委員）	文章を図にあわせて、「宜野湾市都市交通マスタープランに基づき公共交通体系を構築していく」と修正する。	○
	P48 の（７）タクシー事業者の厳しい経営環境・人手不足で使用している図表が P18 の（２）タクシーの運行状況の図表と同じなので少し工夫をした方がよい。（大城委員）		
10	P14 の「本市を通過する路線バス・・・」の「本市を通過する」はいらないのではないか。（大城委員）	ご指摘を踏まえ、削除する。	○
11	P19 と P29 に路線バスの利用状況、P21 と P30 にタクシーの利用状況とタイトルがあるが、内容にあわせて、P19、P21 を「利用の現状」に見直した方がよいのではないか。（大城委員）	ご指摘を踏まえ、P19、P21 のタイトルを「路線バス（タクシー）利用の現状」に修正する。	○
	P21 の３）タクシーの利用特性において「琉球大学関連の需要がある（健康調査時の公民館からの送迎、学会、教員免許更新など）」との記載があるが、何を言っているのかが分からない。（大城委員）		
12	97 番の路線バスのダイヤが変わり、乗り継ぎが必要になるだけでなく、ダイヤの調整ができておらず、待ち時間が長い。バスの乗り継ぎも考えたダイヤを検討しないとバス離れが進む。（田場委員）	交通事業者と個別に確認	—

No	主な指摘・意見	対応方針	計画への反映
13	・決済方法については様々な種類があるが、多様化しすぎると車内が機器だらけになるためバランスが重要になる。 ・インターネット環境がないと決済が行えないものもあるため、電波状況や停電時の運行も考慮し、検討する必要がある。 ・決済方法については、各市町村の交通会議を含め沖縄県全体で考える必要がある。（神谷委員）	—	—
14	P80の施策4-2.他分野と共創による新たな仕組みづくりの実施主体が、都市計画課、観光スポーツ課、産業政策課と限定されているが、市役所全体でどのように交通と共創を図っていくかを検討すべきであるので、課を限定しない方がよいのではないか。（神谷委員）	ご指摘を踏まえ、実施主体の宜野湾市は課名を記載しないように修正する。	○
15	P98 の用語集の二次交通は、2 つ目に利用する交通機関ではないので、説明文章の修正が必要。（神谷委員）	二次交通の説明を、「市町村や地域をまたぐ移動において、地域間等連絡する鉄道や航空機、高速バス等の代表的な交通手段から乗り継ぐ最終目的地までの交通手段のこと。」と修正する。	○
16	P83 の若狭地区の事例のタイトルは、本文にあわせて、ゾーン 30 プラスに修正した方がよい。（神谷委員）	ご指摘の通り、修正。	○
17	運輸局の統計資料は、年度が 10 月はじまりであるため、どこかにその旨を記載した方がよい。（神谷委員）	本計画では、利用者数や収支のデータを掲載しているが、元データの交通事業者から提出される輸送実績は、4 月から 3 月の 1 年間のデータであることから、注釈等は追記しないこととした。	○
18	モビリティ・マネジメントは、継続して実施している学校と実施していない学校との比較により、効果を検証し、改善を図りながら進めるべきである。（神谷委員）	—	—

No	主な指摘・意見	対応方針	計画への反映
19	西普天間の医学部の呼称は、「西普天間キャンパス」になる見込みである。（神谷委員）	—	—
20	計画の事業の早期着手を期待したい。バスもタクシーも同じような課題を抱えている。サービスの統廃合、総括管理などに着手しないと事業が進まないのではないか。システムづくりにおいて、学生のスタートアップなどとの連携も期待したい。（崎原委員）	—	—